

ジュリーク、2024年までに 全商品の容器・包材を再生可能な素材に切り替え 9月発売「RARE ROSE」シリーズより順次開始

ポーラ・オルビスグループの Jurlique International Pty. Ltd. (本社: オーストラリアサウスオーストラリア州、社長: 山本融) は、9月5日にアメリカとオーストラリアで新発売する「RARE ROSE」シリーズ(日本は9月7日発売^{※1})の容器・包材について、最大94%を再生可能な素材に変更します。また、同社は2024年までに全ての商品の容器・包材について再生可能な素材に切り替えることを目指します。

※1 一部店舗にて8月31日先行発売



「RARE ROSE」シリーズ

ポーラ・オルビスグループでは、自社で定めたプラスチック循環方針に基づき、2029年までに化粧品プラスチック容器・包材について4R^{※2}に基づいた100%サステナブルな設計にするという目標を決定しました。容器のリサイクルをはじめ、容器回収や再生プラスチックを使用するなどの取り組みを進めています。

その中で、ジュリークは2022年3月より開始したリブランディングの第2弾として、中核シリーズの一つであるオーガニック認証自社農園で誕生したオリジナルローズ“ジュリーク”を使用した「RARE ROSE」シリーズをリニューアルし、商品に使われている容器・包材の最大94%(ポンプ、キャップ等の部分を除く全素材)^{※3}を再生可能な素材に切り替え、環境負荷低減を実現します^{※4}。

※2 Reduce(使用量を削減する)、Reuse(繰り返し使用する)、Replace(他素材に置き換える)、Recycle(資源を循環し使用し続ける)

※3 オーストラリアにおけるリサイクル基準をもとに計算 ※4 リサイクル率は国や地域の状況により異なる

ジュリークにおけるSDGs(持続可能な開発目標)の取り組み

オーガニックやエシカルという概念がまだ広く知られていなかった1985年の創業当時から、ジュリークは地球環境への負荷を軽減する取り組みを継続的に行ってきました。「バイオダイナミック無農薬有機農法を用い、原料となる植物を自ら栽培」「雨水の再利用を用いた節水」「自社農園や工場からのごみは全て再利用、リサイクル、またはエネルギーに転換」「ソーラーパネルを用いた自家発電」など、多岐に渡る取り組みを実践しています。今後もオーガニックコスメのパイオニアとして、自然と環境、女性が輝く未来につながるような活動に取り組んでいきます。

▶参考リリース:SDGs(持続可能な開発目標)達成に向けたジュリークの取り組み(2020年3月25日)

https://www.po-holdings.co.jp/news/pdf/20200325_csr.pdf

ジュリークについて

ジュリークは、世界で最も美しい空気と肥沃な大地が広がると言われているオーストラリアのアデレードで1985年に誕生しました。寒暖差の激しい過酷な気候を持つこの大地に、唯一無二の広大なオーガニック認証自社農園を所有し、土づくりから、植物の栽培、製造から品質管理まで一貫して行い「自然を贅沢に極めるこだわりの化粧品」を創り続けています。現在、オーストラリア・免税店・中国・香港を中心に23の国と地域にて展開しています。

▶ジュリーク公式HP(オーストラリア)<https://jurlique.com.au/> (日本)<https://jurlique-japan.com/>

【報道関係者の皆さまからのお問い合わせ先】(株)ポーラ・オルビスホールディングス コーポレートコミュニケーション室
広報担当 Tel 03-3563-5540 / Mail webmaster@po-holdings.co.jp

※在宅勤務を推奨しておりますので、お電話が繋がらない場合はメールにてお問い合わせください。